

活動履歴と今後の予定

- 1/17 八本松児童館協働企画会議
 1/19 錦町東住宅役員会
 1/20 高齢者サポートチームしおたがネットワーク会議
 1/30 錦町東住宅正副会長会議
 2/5 熊本県益城町視察受け入れ
 2/8 きたはま食堂
 八本松児童館防災プロジェクト発表会
 2/10 北浜住宅会役員会
 2/11 玉浦西地区お菓子の家づくり
 大規模災害公営住宅交流会参加
 2/16 荒井東住宅陶芸ワークショップ「土地を食べる」
 錦町東住宅役員会
 2/17 清水沢東住宅サークル懇談会
 第5回理事会
 3/15 錦町東住宅一斉清掃
 3/26 塩竈市ふれあいサポートセンターネットワーク会議

※3月21日に開催を予定していた公開シンポジウム「復興の先の新たな地域運営に向けて」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となりました。

あすと食堂
好評開催中です！

〈これまでの内容とこれからの予定〉 ＊カッコ内は調理担当団体です。

- 1/12 あすと第二食堂(仙台白百合女子大学)
 1/26 あすと第三食堂(KABO.蕎麦会)
 2/22 あすと第二食堂(ほっと亭)

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、
3月のあすと食堂は中止としました。

お気軽に
ご参加
ください！



入会のご案内／寄付のお願い

つなセンでは、あすと長町を拠点としつつ、そこで培われた復興コミュニティデザインの経験を、東日本大震災の被災地や熊本など他地域へ伝えるべく、活動しています。民間非営利の立場で、枠にとらわれずに機動的に活動を続けていくためには、皆さまからの会費や寄付が大きな支えとなります。会員として、又は寄付を通じて、ぜひ応援をお願い致します。

継続的に応援するには

- 正会員又は賛助会員にご入会ください。
 ・正会員：年間6,000円・総会議決権あり
 ・賛助会員：年間3,000円・総会議決権なし

寄付のお振込先

- 〈口座名義〉特定非営利活動法人つながりデザインセンター・あすと長町
 ●郵便振替：02230-8-121908
 ●銀行振込：ゆうちょ銀行 ニニ九支店(ニニキュウ) 当座預金 0121908

会員団体のみなさま

@グリーン(宮城大学ボランティアサークル) 安全安心なまちづくり 一般社団法人日本で・あて推進協会
 NPO法人アートワークショップすんぷちよ NPO法人クラブス NPO法人 仙台傾聴の会 NPO都市住宅とまちづくり研究会
 NPO法人東日本ネットワーク手にぎり隊 NPO法人 みやぎ「こうでねい」と 株式会社ミツイ 共立女子大学 高橋研究室
 グループひまわり CASEまちづくり研究所 高齢者配食サービス「ほっと亭」 今野不動産株式会社
 仙台白百合女子大学 佐々木研究室 仙台南健康友の会 つばさ薬局長町店 東北工業大学 新井研究室
 東北大学 東日本大震災PGT支援機構 東北福祉大学 平泉研究室 東北学院大学 坂本研究室 都市建築設計集団/UAPP
 長崎大学安武研究室 日本ヨーガ療法学会 認定療法士会みやぎ
 宮城厚生協会長町病院 みやぎ生活協同組合 宮城大学 森本研究室 有限会社栗駒建業

役員名簿

代表：平泉 拓
 副代表：新井 信幸
 副代表：薄田 榮一
 理事：宮本 愛
 理事：加藤 涉
 理事：森山 英子
 監事：坂本 泰伸
 監事：佐々木 裕子

編集後記

人と人との接触を阻むコロナウィルスは、孤立を防ぐコミュニティづくりを進めるつなセンにとっても厄介なシロモノです。けど、こういう苦境の時こそ、新しい何かを生み出すチャンスなのかもしれません。また日常という当たり前の日々には有難味を感じることができる時間でもあります。それは9年前の3.11後もそうでした。あの頃を思い出しながら、コロナウィルスに対峙していくことに意義がありそうです。〈新井〉

特定非営利活動法人

つながりデザインセンター・あすと長町

〒982-0011 仙台市太白区長町六丁目14番6号ひまわりハイツ1階

TEL 080-3205-5177
 MAIL asuto@tsuna-cen.com
 WEB www.tsuna-cen.com

GOOD DESIGN AWARD 2018

14
2020.03

つなセン
TSUNAGARI Design Center
NEWS



つなセンがコミュニティづくり支援に入っている仙台市・荒井東市営住宅

地域の主体性を育む居場所運営

児童館防災プロジェクト発表会
 集会所利用グループ懇談会開催
 玉浦西・お菓子の家づくり
 【団体紹介】CASEまちづくり研究所

活動報告

Main Topic

宮城県仙台市災害公営住宅
居住者組織の役割とは1 高齢化により
自治機能低下

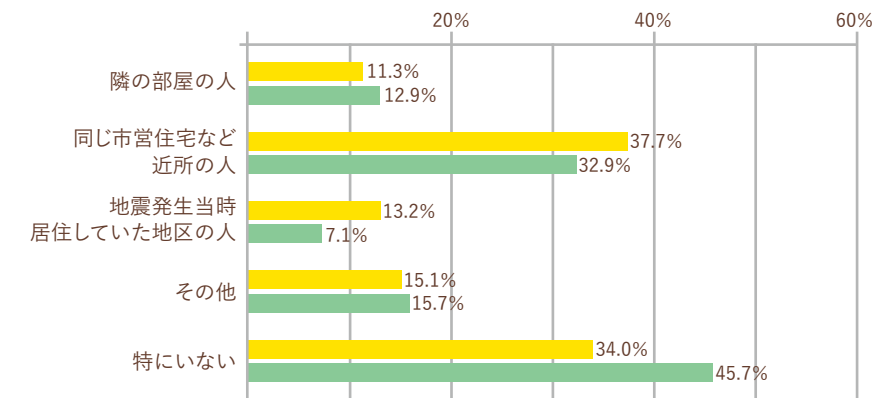
災害公営住宅では、住宅管理の一部が居住者側に義務づけられています。その範囲は自治体によって異なりますが、概ね共益費(共用部の管球類、電気代等)の集金・管理、共用部の清掃・保守点検、集会所の管理・運営等が挙げられます。これに付随して、生活マナー・ルールづくり等も居住者側に求められます。自治組織では、これらに加え、お祭りなどの年中行事や居住者の孤立を防ぐ取り組み(お茶会、見守り活動等)を実施している(しようとしている)ところもみられています。しかし、高齢化に



▲クリスマス会(主催:つなセン)には、住宅内外から多くの子どもたちが参加してくれました(荒井東市営住宅)。

伴って、これらの取り組みが機能しづらくなっているのが実情です。

昨年からつなセンが支援で関わっている荒井東(災害公営)市営住宅(仙台市・298戸)では自治会(荒井東町内会)の入会率が約50%となっています。この場合、入会していない世帯からは集金ができないため、全体の半分からしか共益費は入りません。また自治会役員たちはイベント開催等を通してコミュニティづくりに励んでいましたが、この1年間に3名の孤独死が発生しました。同住宅において昨年実施したアンケート調査(調査主体:つなセン等)では、自治会員、非会員の住宅内の繋がりはどちらも低調で数字にほとんど差はみられませんでした(下記グラフ)。このような状況は、今後、多くの地域でみられてくるものと思われます。



グラフ:日常的に会話する相手(家族以外) / 荒井東市営住宅 [■:自治会員、■:非会員]

2 居住者主体の
新たな地域運営へ！

つなセンでは、あすと長町や塩竈市内の災害公営住宅での支援の経験から、居住者に義務付けられている住宅管理のみを実施する居住者組織を結成することを推奨しています。これによって、高齢化した居住者等の負担は軽減されます。この方式でこれまで支援してきた住宅では、ほぼ100%の世帯が入会する組織が結成されています。また、孤立を防ぐ取り組みにおいては、つなセンNEWS13号の特集でも取り上げましたが、集会所の利用を外部に開いた居場所づくりが効果的であると考えています。



▲今年2月に開催した陶芸ワークショップ(主催:ビルドフルーガス、つなセン)には、住宅内から年配の方々が参加してくれました(荒井東市営住宅)。

3 ブックレット
発行しました！

上述した新たな地域運営や居場所づくりの基本的な考え方やノウハウ、具体的な事例を紹介するブックレット「公営住宅からはじめる新たな地域運営～復興の先のコミュニティと居場所づくり～」を今年3月に発行しました。復興期のコミュニティづくりや、自治組織の運営に悩んでいる方々に向けて、ヒントになる一冊です。ご関心のある方は、つなセン事務局までお問い合わせください。



会員
団体紹介
No.14

CASEまちづくり研究所



CASEまちづくり研究所(ケース)は、大阪を中心に建築設計やまちづくりに取り組む専門家集団です。東日本大震災後、あすと長町仮設住宅で実施した災害公営住宅の住民提案づくりの際に、建築計画・設計で多大な協力をいただきました。残念ながら提案は実現しませんでした。あの取り組みがあったからこそ、仮設住宅で育まれたコミュニティが災害公営住宅に継承されることになり、その副産物として、つなセンが生み出されました。改めて代表の松富謙一さんをはじめケースのみなさんに感謝の意を表します。本当にありがとうございました！

松富さんたちはその後も東北に足を運び続け、気仙沼にて商店街の再生と災害公営住宅を合築したプロジェクトを手がけ、2017年に完成を迎えました(写真)。低層棟には飲食店、5階建の中層棟に災害公営住宅24戸等が入り、船の帆のような屋根のデザインが、港町復興のシンボルとなっています。このプロジェクトは、都市住宅学会賞(2019年度業績賞)を受賞するなど、社会的に高い評価を受けています。

Topics

児童館防災プロジェクト発表会 2/8

今年度、八本松児童館が協力し、防災キャンプ2回、まちあるき&防災マップづくり4回を開催した『子どもたちから発信!まちの防災・減災プロジェクト』。子どもたちやボランティア学生による発表会が開催されました。発表会当日は、保護者、地域の方々等26名が参加し、カラフルな模型の前で子どもたちの報告に聞き



入りました。昨年は台風19号の防災もあり、子どもたちも日頃の防災の大切さを自分のこととして実感したようです。児童館企画への協力は来年度も継続します!(予定)。

集会所利用グループ懇談会開催 2/17
—清水沢東住宅—

2月17日、清水沢東住宅(塩竈市)にて第三回集会所利用グループ懇談会を開催し、集会所を定期利用する13団体と管理者である清水沢東会(住民組織)の代表など約30名が参加しました。昨年10月に続き3回目の開催となり、この日の懇談会では次年度へ向けた利用方法について意見交換を行い、利用グループが余裕を持った活動ができるよう利用時間帯の検討などを行いました。次年度も9割以上の団体の活動継続が決まり、また新たな利用グループ(書道教室、俳句の会)も増え、より一層にぎやかな集会所となりそうです。



玉浦西・お菓子の家づくり 2/11

2月11日午後、玉浦西地区災害公営住宅(岩沼市)にて、「ハッピーバレンタインお菓子の家づくり」を開催しました。玉浦西では2回目のお菓子の家づくりとなります。

好評であった前回の開催を考慮し、今回はQRコードによる事前予約を行いました。2部開催で約45名の参加を予定しましたが、当日は



今年にしては珍しい寒い雪の中にもかかわらず、住民のお子様の学校のお友達やママ友等、地区内外を含め60名を大きく超え大盛況となりました。

ご家族皆さんで「お菓子の家」をきれいに楽しそうにつくられ、

大事そうに持ち帰られたのが印象的でした。

またバンドによるケーナ演奏やヒット曲メドレー等のご協力もあり、にぎやかなイベントになりました。

参加した保護者の皆さんにご協力頂いたアンケートでは、ほぼ全員から「非常に満足」の評価を頂き、私たち主催者としても、企画・実施した甲斐がありホッとしています。

玉浦西では、今後も多世代交流イベントを企画する予定ですが、この度のアンケート結果を活かしながら、地元地域の皆さんのご協力のもと、開催していきたいと思っています。

